

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-088	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Acute Alcohol Use and Suicide 急な飲酒と自殺		
執筆者		
Yim M, Kim H, Kim G, Hur JW.		
掲載誌		
PMC11851243 DOI: 10.1001/jamanetworkopen.2024.61409		
キーワード		PMID
急な飲酒、アルコール使用障害、自殺、自殺の手段、韓国		39992652
要 旨		
<p>目的: 急な飲酒 (acute alcohol use; AAU) と自殺リスク因子との関連を検討し、特に AAU と自殺方法の選択との関係に焦点を当てて分析すること。</p> <p>方法: この横断研究には、「韓国自殺被害者全国調査 (KNIGHTS)」のデータを用いた。KNIGHTS データセットは、2013 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日までの期間に韓国で発生したほぼすべての自殺死亡例を網羅した、国を代表するデータである。分析は 2023 年 11 月 2 日～10 日に行った。主な評価項目は、自殺した人が死亡前に飲酒していたか否かとした。訓練を受けた調査員が警察の自殺報告書をもとに心理学的剖検を行った。飲酒の有無は、次の 3 つの情報源から判定した: (1) 関係者による証言、(2) 解剖報告で血中アルコール濃度が陽性 (3) 警察官による現場での観察。人口統計学的特徴、死亡前の精神症状、自殺手段や動機などの自殺に関する特徴を調査した。階層ロジスティック回帰モデルを用いて、AAU の寄与要因との関連を分析した。</p> <p>結果: この研究では、自殺により死亡した 55,226 人 (男性 65.5%) が含まれ、そのうち 21,998 人 (39.8%) が死亡時に飲酒状態であった。男性 (オッズ比 [OR]: 1.37 [95%信頼区間: 1.31–1.44])、中年層 (例: 30～39 歳、OR: 1.20 [95%CI: 1.06–1.35])、アルコール使用障害の症状があること (OR: 13.28 [95%CI: 12.38–14.24]) と AAU が関連していた。自殺手段の中では、ガス・薬物・殺虫剤による中毒が AAU と正の関連を示した。特にガス中毒との関連が最も強かった (OR: 1.88 [95%CI: 1.61–2.20])。年齢と自殺手段の間には相互作用が認められ、高齢者 (例: 80 歳以上) の自殺では、薬物 (OR: 6.28 [95%CI: 3.53–11.17])、殺虫剤 (OR: 6.56 [95%CI: 3.86–11.13])、ガス (OR: 2.48 [95%CI: 1.52–4.04]) の使用時に AAU である可能性が高かった。</p> <p>結論: この横断研究の結果は、AAU がガス中毒との関連性を示すオッズ比によって裏付けられていて、計画的な自殺を遂行するために意図的に飲酒した可能性があることを示唆している。特に、炭の燃焼など準備に時間のかかる方法で傾向が顕著だった。また、高齢者が比較的致死性の低い手段で自殺する際にも飲酒していたケースが多くみられたことから、この世代の監視や適切な管理が重要である。</p>		